

生徒会部

<サマーキャンプ>

かつては『リーダー研修』と呼ばれていたサマーキャンプは、近年は毎年7月中旬に和歌山県の宿泊施設を舞台に1泊2日で実施されています。自主性・積極性・協調性を養う機会として、また学年を超えた繋がりを作る場となっており、毎年30人前後が参加しています。

サマーキャンプ中は、模擬討議・飯盒炊爨・料理コンテスト・キャンプファイヤー・レクリエーションなど、すべてのイベントを生徒が企画・運営し、『自分が積極的に行動すること』『他者を思いやって行動すること』の大切さを学びます。この経験を通し、生徒たちは、文化祭や体育祭の中心的な役割を担っていく素養を身につけ、リーダーとして集団をけん引する力を身につけていきました。



<文化祭>

例年11月の初旬に行われている文化祭は、各クラス単位での企画になるため、夏休み前から準備が始まっていきます。2年生では、修学旅行の時期と重なるため少ない準備期間となりますが、毎年世の中の動きを表現する企画が練られ、年々その内容も充実してきています。近年では、身近にスマートフォンが普及し、簡単に動画撮影・編集ができるようになったことが影響してか、映像を作成し、演劇に取り込むスタイルが人気です。また、各クラスの企画の広告塔としての役割を担う『垂れ幕』も、文化祭の見所として柏原東高校の名物になっています。体育祭では上級生が主導してくれた1・2年生も、この文化祭ではクラスでの活動になります。困難を乗り越えてクラスの団結に大きく貢献している文化祭が毎年作り上げられています。コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年度の開催は叶いませんでしたが、その分のエネルギーを生徒たちは体育祭に注いでくれました。



<クラブ活動>

体育系クラブ、文化系クラブともに、時代とともに増減していきました。体育系クラブは近畿大会、インターハイへの出場を目指し、日々研鑽を重ね、幾度となくその夢を実現していきました。近年では、柔道部は近畿大会へ出場し、陸上競技部はインターハイへの出場をつかみ取りました。文化部においては、書道部の第38回大阪府芸術文化祭奨励賞受賞、理科部の大阪府学生科学賞における佳作受賞など、輝かしい実績を残してこられました。各クラブにおいて歴代の先輩方が残してこられた伝統は確実に受け継がれ、42期生の代で幕を下ろすことが心惜しくなりません。夢の実現のために努力するクラブ員は、常に柏原東高校のリーダーとして校内外で活躍されてきました。

柏原東高校とは、日ごろの授業はもとより、体育祭、文化祭などの学校行事、クラブ活動など、さまざまな場面で成長するチャンスが転がっている学校です。生徒が自発的に行動し、そのチャンスを活かして人間的に大きく成長する場面を幾度となく目にしてきました。そしてその自発的な活動は、生徒会執行部をはじめとする生徒会部がリードしてきました。

5年先の状況が読めないほど急速に進歩する現代社会において、ともすればAIや人工知能に人間の営みが脅かされる未来が現実味を帯びてくる中で、柏原東高校を卒業された方々は、この困難な状況を自らの手で切り開いていっておられるのだと思います。その根底には、柏原東高校で努力したこと、身につけた力が大きく寄与しているのだと確信しています。柏原東高校の生徒会活動は、今も昔も変わることなく生徒の能力を最大限に引き延ばすものであったと、自信をもって伝えていこうと思います。

PTA・同窓会



令和2年度 PTA事業計画

月	日	事業名	備考
6月	6日(土)	PTA役員会	
7月	11日(土)	第1回 実行委員会	
8月	31日(月)	PTA新聞「柏東」84号発行	
9月	5日(土)	第2回 実行委員会	
10月	11日(日)	PTA社会見学会	(中止)
	7日(土)	第3回 実行委員会	
	8日(日)	青山台地区大清掃	(中止)
	14日(土)	第44回 体育祭	
	28日(土)	第1回 会計監査委員会 第4回 実行委員会 第5ブロック 地区協議会	
<令和3年>			
3月	5日(金)	PTA新聞「柏東」第85(最終)号発行	
	7日(日)	第42回 卒業式 柏原東高校 閉校式	
		第5回 実行委員会	





「PTA活動のご報告」

大阪府立柏原東高等学校 PTA会長 黒岩 真弓

日頃は、PTA活動に多大なご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、1学期のスタートは6月となり、PTA総会も開催出来ず書類および委任状による議決という異例の措置となりました。

例年6月に行われていた体育祭は11月となり、11月の文化祭は中止となってしまいました。PTA社会見学も中止となりましたので、その予算で生徒用にユニクロエアリズムマスクを購入し配付させていただきました。

その他、本年度においては今現在ご報告できる活動がほとんどありません。一日も早く日常が戻ることを願うばかりです。

ということで、昨年までの活動を振り返り、ご報告させていただきます。

まずは体育祭、PTAから熱中症対策に生徒用にスポーツ飲料を冷凍と常温の2本、教員、役員、救護 TENT 用の飲料をそれぞれ用意しています。

昨年は途中からの雨で省略となってしまいましたがPTA競技として例年、景品付きの借り物競争を行っておりOBや保護者の皆さんのご協力でたくさんの方に楽しく参加いただいています。

7月は親子の進路研修会がありました。昨年は大阪学院大学と関西外語大学の2校のオープンキャンパスに、生徒、保

護者、教員で参加し、学食やカフェ、生徒は授業を体験し充実した研修会となりました。

9月は社会見学です。一昨年は大塚国立美術館とランチビュッフェ、昨年は天橋立と海鮮丼食べ放題でした。初めて参加して下さる方もいて保護者同士の交流を深めることができました。

11月は文化祭です。昨年は例年の景品付きゲームコーナー、ストラックアウトと缶詰の他にポップコーンとジュースの食品コーナーに初挑戦しました。

その他、6月と2月に下校指導、11月は青山台の清掃を行い、それぞれの行事を通して生徒達の元気な姿をみて楽しく活動させていただきました。

他には非常時の備えとして非常食等の備蓄品を学校に保管していただいています。

閉校が決まり、学年が減ることで当然ながら教員も役員も少なくなります。今後のPTA活動に支障をきたさないために昨年のPTA総会で規則が改正され、前会長、副会長等数名の役員に顧問として一緒に活動していただいています。

皆さんのご協力のおかげで無事にPTAの活動が行えてきたことに感謝いたします。

ありがとうございました。以上、ご報告とさせていただきます。



「大阪府立柏原東高等学校」

大阪府立柏原東高等学校 同窓会副会長 19期 中川 円香

令和3年3月31日をもって閉校を迎えた。

20代に同窓会役員に推薦されたものの力不足の役員だったと思う。創立40周年を迎えてすぐに閉校が決定。芸能人が母校を訪問する番組を見ると、学校とはいつまでも存在するものと思っていた。個人的に必死に存続活動をしたものの覆す事が叶わず閉校を受け入れるしかなくなった。

“3年間、柏原東に通えば大抵は乗り越えられる”電車数が少ない、駅から遠い、荷物は重いし坂もしんどい、も慣れたもので友達とふざけながら校門をくぐる日々となっていた。校舎から階段から眺めるグラウンドは卒業しても変わらず、だっ広く存在し体育授業をぼんやり教室から眺めたこと、持久走や体育祭、大阪なみはや国体のセレモニーの練習が自慢できるほど濃厚な高校生活を送れた事は幸せだった。卒業後は慣れない社会に気分が滅入ると学校を訪れ恩師と語る。いつでも遊びにおいてと単純だけれど気分も晴れモチベーションが上がった。

「柏東生は特に1年生はヤンチャ、2年生は半分が落ち着き、3年生は全員が落ち着いて大人になる」と1年生で教わった。厳しい体育科の女性教諭と17期生が廊下で楽しそうに話していた。1年の私には恐ろしい光景で17期の先輩に聞いてみると

「私達も1年の頃は同じ。恐ろしくて、よく喋れるなど思っていた。」
「でもこれは3年生の特権でもあるねん。」と少し自慢気だてて嬉しそうだった。厳しい規則の中にも愛情が詰まっていた。

閉校決定後、現場の先生方の手探りの現状に疲労困憊の色が見えた。どんな困難でも柏東は七転八起する。先輩方が学校を守った話も知る上で「柏原東の生徒は時代が変わっても心根は同じ。生徒と真摯にぶつかってほしい。尊敬尊重し合い問題を乗り越えてきたベテラン教諭達は今も仲が良い」「何より僕らは君らから教わる事ばかりだった」と19期の学年主任の言葉を添えて私が知る限りで鼓舞した。後日の会議で先生方と生徒の信頼関係がより深くなっている話が聞けた。先生方の真摯に取り組む姿勢が42期生に響いている。卒業と閉校が重なった上にコロナの影響で翻弄されたけれど、我慢と優しさで強さを培った学年であると思う。苦楽を共にした友達や先生方とも未永く繋がってほしい。

下足場から外に出て振り返るとドッシリ構える校舎。1、2期生から耳にした校舎建設中の授業スタイル。柏東生の数々の喜怒哀楽を見守ってくれた母校が大好きでした。

ありがとう。柏原東高校。



「ベトナム小学校移設に関して」 ～カシトン海を渡る。柏原東高校は永遠に!～

大阪府立柏原東高等学校 同窓会顧問
元職員 近田 直人



キムソン・カシトン小学校

柏原東高校が統廃合の対象となったニュースを目にした時の衝撃は忘れられません。「柏原東高校がなくなる!」そのことばかりが頭の中を何度もめぐりました。教え子たちの落胆の声も耳にしました。同窓会で何かできることは無いか?同窓会役員会でも今後の同窓会のあり方が議題に上がりました。

何か良い知恵はないか?ふと頭の中に浮かんだことは、「無くなるのなら作ればよい。柏原東高校のアイデンティティーと歴史を引き継いでくれる学校を作ればよい。

少子高齢社会の日本では学校の統廃合は避けられませんが、海外に目を移せば学校が欲しくてたまらない国や地域は山ほどあります。学びたくとも教育の機会に恵まれない子供たちも沢山います。学校は有っても、狭い校舎は暗く雨風は吹き曝し、トイレも飲料水も確保できず、安心して学べる教育環境からは程遠い学校も多くあります。そんな海外の子供たちのために学校を建設し柏原東高校のアイデンティティーと歴史を引き継いでもらう。



バクザン省
ヴィエツトイエン郡
ティエンソ社キムソン村

当初はそんなことは可能なか?と疑念の声もありましたが、やると決めれば道は開けるものです。困難に立ち向かう姿勢こそが柏原東高校のアイデンティティーの継承そのものです。諦めず行動すれば同志とは巡り会うもの、海外での学校建設を実現された「アジアの子供たちへの学校建設プロジェクト」の寺田氏に出会い、橋渡しをしていただくNPO法人アジア教育友好協会さん、現地NGOのCSDさんのご協力の下、ベトナムはバクザン省ヴィエツトイエン郡ティエンソ社キムソン村にあるティエンソ小学校キムソン分校を建設計画が浮上しました。2019年1月の同窓会総会の承認をうけ、昨年9月には現地視察を行い、キムソン分校の子供たちや地域の方々の熱烈歓迎をうけ、子供たちの学びに対する純粋で熱い思いを感じることもできました。また、現地の行政の方々、校長先生、地域住民の方々、地域関係諸団体との協議も印象深く忘れられない時間となりました。



ベトナムは社会主義の国です。日本の我々の思いをどう伝えるか?理解してもらえるか?とても緊張したことが忘れられません。こんな一幕もありました。

名前をオフィシャルに継承していただけるか懸念していた私ども、「友好の証として柏原東=通称カシトンの名前を継承して欲しい」とのこちらの提案に現地の方々は「当たり前だ、貴方が名前を今決めたらよい!何がよい?」と仰って頂いたのには驚きました。「私はキムソン村とカシトンの友好の証なのでキムソン・カシトン小学校はどうだろう?」と提案しました。すると軍服を着た厳めしい役

員の方が「いや、それはおかしい!」と発言され、一瞬の静寂と緊張の後に続けて、「キムソン・カシトンではだめだ!カシトン・キムソンだろう!」と、カシトンに敬意を払ったこの発言にベトナムの皆さんのカシトンへの思いと感謝の念の大きさに胸が熱くなったことが忘れられません。この瞬間こそが「キムソン・カシトン校」が産声を上げ、柏原東高校が名実ともにベトナムの子供たちと先輩後輩の絆で結ばれ、日越友好の証となった歴史的瞬間だったのです。校歌もメロディーはそのままにベトナム語でアレンジされ引き継いでもらえることとなり、今後の未来につながる交流を約束していただいたこの協議会は一生涯忘れることができません。

残念ながらコロナウィルスの影響で2020年3月20日に予定されていたベトナムでのキムソン・カシトン校の開校式典は中止となりましたが、キムソン・カシトン校は完成しベトナムの子供たちは目を輝かせ、真新し校舎で学び、日本の先輩たちと共に国際貢献できることを心待ちにしています。

日本に目をやれば、少子高齢社会に学校の統廃合は今後も多くの課題を残しています。母校が廃校となり、よりどころをなくす人や地域は増え、海外の労働力に頼る現状も増すばかりです。心無い日本企業による外国人労働者への不当な扱い、失踪する留学生や技能実習生、さまざまな今日的課題も耳にします、それら日本の構造的な社会問題に一石を投じる柏原東高校のこのプロジェクト。



母校は海外で受け継がれ可愛い後輩が海外に育つ、海外との地域交流も生まれ、ベトナムの子供たちは成長し、やがて感謝の気持ちをもって日本に帰って来てくれる。日本の先輩たちはそんな後輩たちを温かく支援する。学校建設がゴールではない、これからの交流支援こそが「カシトン」の継承。その意味においても柏原東高校は永久不滅の存在でなければなりません。日越友好の懸け橋となり国際貢献に寄与する柏原東高校。この取り組みが全国のモデルケースとなり更なる国際支援につながることを祈るばかり。キムソン・カシトン校の子供たちも遥かベトナムの地で日本、柏原東への感謝を胸に笑顔で頑張っていることでしょう。

柏原東高校=カシトンは海を渡り引き継がれました。

卒業生の皆さん!

**ベトナムの後輩たちとの再会を期して、
胸を張り日本での閉校の時を迎えましょう。**



「ご挨拶」

大阪府立柏原東高等学校 学校医 藤江 博

私は、平成29年度より中西三郎先生、中西一絵先生の後任として学校医及び産業医を務めることとなりました。1977年の開校以来44年間の歴史に幕を閉じられるということで、一文寄稿させていただきます。44年前というと、スマートフォンや携帯電話はもとより、パソコンやインターネットも個々の生活とは無縁の時代でした。家族の在り方や食生活、学生生活の過ごし方なども、今とは違うものでした。そこから、医学や科学技術の進歩、核家族の進行などを経て、現代の環境が出来上がってきました。食生活の欧米化の進行や、情報機器等の発達により様々なものが便利になった反面、運動不足による生活習慣病の増加などいろいろと問題も指摘されています。健康維持・増進の基本は、規則正しい生活です。適度な運動に十分な睡眠、規則正しい食生活を送ることが肝要です。柏原東高校は、学校生活の要としてこの指導に取り組んでこられました。卒業生の皆さんは、しっかり身につけておられることと思います。検診の時などに、生徒の皆さんが爽やかに挨拶をしてくれたことを覚えています。今後、さらなるスピードで様々な環境が変化をしていくと思いますが、規則正しい生活を基本に健康で心豊かな生活を過ごしていただきたいと思います。閉校に当たり、皆さまの益々のご活躍を祈念して結びといたします。

「柏原東高校を振り返って」

大阪府立柏原東高等学校 学校歯科医 島田 英司

わたしが柏原東高校の学校歯科医として初めて委任されたのが、平成17年でした。あれから歴代校長先生、諸先生方を巻き込んで試行錯誤しながら生徒さん達の身になること、知識になることを色々企画、実践してきました。毎年の学校歯科検診、歯科領域だけに関わらない広い分野での講演会や講習会、関西女子短期大学の細見環教授による禁煙指導講習、関西女子短期大学衛生学科の学生達と連携した口腔衛生事業、高校の文化祭での生徒さん達の歯科分野での展示についての監修など…これらのことが少しでも生徒さん達の心に残ってくれていれば幸いです。私にとっても口腔衛生学の実践という意味では非常に勉強させていただきました。心から感謝いたします。

109番目の大阪府立高等学校として、1977年に開校した、柏原市にある唯一の大阪府立高等学校で、生徒たちの挨拶がとても気持ちよくて、ここが閉校されるのは本当に残念です。しかし、今までに係わってこられた方々の努力と在籍された生徒さんたちの思いは決して失われないものだと思います。最後に、学校歯科に関して多々ご指導いただいた保健主事の伊藤万紀子先生に感謝、御礼申し上げます。

「柏原東を振り返って」

大阪府立柏原東高等学校 給品部 西村 美樹

給品部を担当させて頂いております、おばちゃんです。

柏原東高校が柏原市唯一の府立高校として誕生し、数年前に40周年を迎えたばかりで、突然の閉校と聞きびっくりしました。

開校当初より文具や新入生向けのスリッパ等を販売させて頂きました。私自身は、平成17年より引き継ぎました。生徒の皆さんとは、休み時間だけのお付き合いでしたが、明るい声で「おばちゃん、おはよう!」とご挨拶を頂き、沢山のエネルギーを頂きました。

引き継いだ当初より制服・体操服等も変わり、長い月日を感じます。クラス数も多く大変賑やかだったことや、沢山おられた先生の顔と名前が覚えられずご迷惑をおかけしたこと、実用書道の授業でステキな価格表を作成してもらったり、バレンタインの時に手作りのお菓子を頂いたり、体育祭・文化祭をはじめとするイベントでの皆様の楽しそうな笑顔や沢山の思い出を頂いたり…。私の一生の宝物です。

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。今まで本当にありがとうございました。



特別寄稿

「柏原東高校に関わる全ての事に“感謝”」

大阪府立柏原東高等学校 食堂 瀨本 行則

2010年4月より柏原東高校で食堂の営業をさせていただき、閉校する2021年までの11年間、たくさんの生徒さんと先生方に利用していただいた事に感謝します。

毎年たくさんの生徒さんが卒業し、先生方が転勤するたび、寂しい思いをしていましたが、体育祭や文化祭、部活動の試合の時に懐かしい顔を見ると、食堂を続けていけば皆の成長した姿を見る事ができる喜びを感じていました。

柏原東高校が閉校になり、そういった機会もなくなり残念ですが、柏原東高校は信貴山、二上山、大和川などの自然に囲まれた環境にあり、その景色は都会と違い、今後変わる事はないと思います。学校は無くなりますが、信貴山や二上山、大和川を車や電車の窓から見た時に、柏原東高校での思い出が蘇り、熱く、厳しく、あたたかい気持ちで大阪の自然が僕たちの行くそれぞれの道を見守ってくれるでしょう。



資料編

「特進コース立ち上げ・B-upタイム」

旧職員 山畑 須美子

33期生が入学して来た頃から、多くの時間を生活指導に充てていた時代から、学習保障や進路保障にかかる時間が多くなる時代へと変わりつつあった。PTを発足させ、この変化をどのように活かし、新たな柏原東を作っていくのかを検討した。多くは就職希望であったが、進学希望者も増えつつあった。そこで、「基礎学力の学び直し」をすることで、学習支援ができると考えた。教材は、独自教材の作成も検討したが、最終は、ベネッセの「マナトレ」を活用することに決定。他校のように、1時間では長すぎ、だれてしまう可能性があると考え、毎週木曜日LHR前の15分をそれに充て自学自習形式で実施した。「学び直し」も目的の一つであったが、「学習習慣を養う」ことも、もう一つの大きな目的とした。「自分を磨く時間 (brush up)」という想いから「B-upタイム」と名付けた。生徒たちの取組みは予想以上で、少しの空き時間に宿題や小テストの勉強をするなど「学習習慣を養う」効果も十分にあった。一方で、進学希望者に対し、さらなる学習保障をするため「特進コース」を設置した。「3年間で4年間の学習時間」を掲げ、放課後・土曜日・長期休業中に講習を実施。定期的に外部模試を受け、学習到達度を測った。先生方の負担は多かったが、近畿大学国際学部にて現役合格など、一定の結果を残せた。これらの取組が道半ばで強制終了することになったことが残念である。

「特別進学コース・B-upタイム 総括」

首席 川田 明寛

変化が激しい世の中を生き抜く力が求められる昨今、生徒の希望進路も多様化する現状から、平成25年度より特別進学コース及びB-upタイム (Brush-upタイム) を設定し、学力の充実・定着を図る取り組みを開始しました。

B-upタイムでは、毎週月・木曜日に15分間基礎的な内容の自習に取り組みます。この時間は、質問することなく、自分の力で基礎学習に取り組みました。また、3年次では、就職試験に向けた一般常識問題やSPI対策に取り組みました。その成果は、あっせん就職合格率100%を9年連続で達成していることにもあらわれています。

一方、特別進学コースは、難関大学への進学を希望する生徒を対象に、「3年間で4年分の授業時間数を確保する」をテーマとした進学プログラムです。生徒のニーズに合わせたカリキュラムを組み、放課後だけでなく長期休暇中にも講習を行い、志望校合格を目指して勉強をつづけました。結果、近畿大学をはじめ、摂南大学などの大学への現役合格を勝ち取っています。

この取り組みで身に着けた基礎学力を、今後の人生に活かしていけることを願っています。



「柏原地域連携型中高一貫教育(書写・書道)」

布澤 芳人

平成21年から府立高校特色づくり(柏原地域中高連携事業)の一環として始まった。

教育課程上の連携と位置づけ、正規の中学国語の授業の中で書写を展開し、評価もする形をとった。柏原市立6中学(平成27年より7中学)の1年生500~600名に対し年間5回(1~3学期合計)の書写授業を行う。道具一式は本校より運び入れ、本校書道教員と中学国語教員とのT・Tで実施した。この形態は当時全国に例はなく、中学書写授業の実施のしづらさを解消する一つの方策であった。

また授業作品の発表の場として、年1回文化施設リビエールホールにて中学1年生全員と本校生徒選抜作品を展示した、「柏原市中高連携書写書道展」は今年度で12回を迎える。

連携授業の主眼は、あくまで文部科学省学習指導要領に沿って、従来から国語教員がされていたことをさらに深化させ幅を持た

せた内容とし、書写から書道への接続をも視野に入れることであった。そして常に生徒に伝えてきたことは、「授業を受けたすべての生徒は書道の所作が正確にでき、自信を持って行書(中学での獲得目標)が書ける」ことであった。これで柏原市立7中学で学んだ生徒は、たとえ将来外国にあっても日本の伝統である書道の基本をしっかり身につけていて実践できることと信じている。

書写授業は連携事業の一環ではあったが、ここから得たものは大きい。地元から理解され、入学したいという生徒も増えた。様々な連携を経験して入学した生徒とは一定の関係性があり、生徒、保護者理解や学びの支援、中高教員同士の連携に大きな力になってきた。12年にわたり思う存分にやれたことは、柏原市立中学校、教育委員会の深い理解と寛容な対応のおかげでもあった。改めて感謝の意を申し上げたい。



「柏原地域連携型中高一貫教育(部活動)」

首席 吉野 達也

バドミントン部・バスケットボール部等が地元中学校との合同練習を月1回ペースで行い、交流を深めてきました。毎回数校の中学校が参加し、柏原東高校の体育施設を使用して練習を行いました。

バドミントン部は平成28年度から「柏東(かしとん)カップ」バドミントン大会を開催し、柏原市の中学校だけでなく、近隣の市町村からも多数の参加があり、大いに盛り上がりを見せました。

バスケットボール部は、柏原市内の中学校だけでなく、八尾市や羽曳野市等の中学校、また各「市選抜」チームも練習に訪れ、それ

ぞれのチーム活性化に役立てていただきました。

高校生と練習する中学生たちのスポーツに対して真剣に取り組む素直な姿勢や純粋な眼差しは、高校生たちにも良い影響を与えてくれました。

交流していただいた各中学校の方々に感謝申し上げるとともに、この良き経験をした選手たちがそれぞれのステージで活躍してくれることを祈念しております。



「保健室のあゆみ(2007年~2020年)~最後にあたって~」

保健主事 伊藤 万紀子

生徒達、教職員の方々と本当に沢山の事を学ばせていただき、感謝の気持ちで一杯です。こんな素晴らしい環境の中で皆さんと同じ時間を過ごせて幸せでした。この9年間に養護教諭・養護助教諭11名の先生方が前面に立って、保健室運営に携わってきてくださいました。ここに感謝の意を表します。一人一人が過ごす時間は3年間ですが、その1日1日が積み重なって44年目を迎えました。「熱く、厳しく、温かく」という母校のモットーを胸に、これからの人生を元気に明るく送れる事を期待します。

42期生の皆さん、どうか柏原東、保健室からの眺めを忘れないでください。

創立から44年の歳月が流れ、保健室も最後の時を迎えようとしています。

この3年間に、皆さんは何回保健室を訪れたでしょうか。

ゆっくり景色を眺めたことはあるでしょうか?

保健室からの眺めと各行事を振り返ってみます。



春 健康診断・講演会・体育祭



夏 救急講習会・薬物乱用防止講演会



秋 文化祭・防災訓練・歯磨き教室



冬 防災研修・卒業式





最終学年 カリキュラム表

教科	科目	1年	2年	3年	3年選択類型	
		共通	共通	共通	ベーシックコース	アドヴァンスコース
国語	国語総合	5				
	現代文B		3	3		
	古典B		2			
	(学)国語読解			△2		
	(学)古典講読			△2		
	(学)日本語応用			△2		
地歴	世界史A		2			
	日本史B		2	2		
	地理A			2		
	(学)歴史探究					●2
公民	現代社会	2				
	(学)時事問題				1	
数学	数学I	3				
	数学II			3		
	数学A		3			
	(学)基礎数学	2				●2
	(学)数学演習I (学)数学演習II				1	
理科	物理基礎				○2	○2
	化学基礎	2				
	化学			▲3		
	生物基礎		2			
	生物			▲3		
	地学基礎	2				
	地学			▲3		
	(学)総合科学A				○2	○2
	(学)総合科学B				○2	○2
保健体育	体育	3	3	3		
	保健	1	1			
	(学)ライフスポーツ				○2	○2
芸術	音I・美I・書I	2				
	音II・美II・書II		2			
	音III・美III・書III				2	
	(学)音楽演習				○2	○2●2
	(学)造形表現 (学)実用書道				○2 ○2	○2●2 ○2●2
外国語	コミュニケーション英語I	4				
	コミュニケーション英語II		4	2		
	(学)スタンダード英語			2		
	(学)アドバンス英語					2
家庭	家庭総合	2	2		○2	○2
	社会と情報		◇2			
情報	情報の科学		◇2			
	(学)ITライセンス				○2	○2●2
	(学)キャリアビジネス				○2	○2
	教科・科目の計	28	28	22	6	6
特別活動 ホームルーム活動	1	1	1			
総合的な学習の時間	1	1	1			
総計	30	30	24	6	6	
選択の方法		◇より1科目	△より1科目 ▲より1科目	○より1科目 ●より1科目		

令和2年度 大阪府立柏原東高等学校 教職員



高江洲 村田 森 高橋 藤岡 谷口
橋本 布澤 百軒 松本
木次 杉山 伊藤 小林 鈴木 早浪
石井 東出 國田 吉見 松宮
川田首席 西事務長 水元校長 吉岡教頭 吉野首席